



やる気もりもり明野の子

明野

4つの気の充実 ～元気（げんき）・本気（ほんき）・根気（こんき）・勇氣（ゆうき）～

明野小学校ホームページアドレス <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/gakko/akeno-es/>

「特別支援教育」

校長 谷川 充穂

教育とは、「教えること」つまり、社会に貢献できる一人前の人間に育てること。と定義します。特別に支援するとは、障害のある児童生徒に対して、適切な指導や必要な支援を行うことです。

障害とは、生活する上での妨げになることです。

特別支援教育とは、児童生徒の様々な妨げをいろいろな配慮によって克服する術を身に付けるお手伝いをする事です。

一人ひとり、少なからず、苦手なことがあったり、得意なことがあったりします。それが個性というものでしょう。苦手なことを克服し、得意なことをどんどん伸ばし、できることを増やしていく作業を担っているのが学校です。ですから、学校は、全ての子に、特別支援の視点に立った教育を提供する必要があるといえます。

「障害」という言葉が、一人歩きしているのではないかと心配があります。障害は特別なことではありません。苦手なこと・困っていること、と言い換えても間違いではないでしょう。

例えば、視力0.1の人がいるとします。今は、眼鏡という便利なものが普及して、購入することにより、簡単に妨げを克服できます。しかし、激しいスポーツなどをするときには、コンタクトなどをつけなくてはなりません。眼鏡のない時代はどうだったのでしょうか。苦労したと思いませんか。スポーツ選手も大変です。プロサッカーチームコンサドーレ札幌の稲本選手は、最近の試合で、大けがをしました。復帰まで六ヶ月もかかるそうです。手術をし、松葉杖や車椅子で生活をしなければならぬでしょう。こう考えてみると、少なからず人間は誰しも障害があり、障害と隣り合わせであると考えられます。

人は、それぞれ、苦手を克服するために、頑張っているのですね。

学校では、特別支援教育の視点を生かして、授業づくりを行っています。

1. 見やすい、シンプルな板書を目指しています。
2. チョークの色も統一化を図っています。
3. 机間指導等で、つまづいている子どもを把握し、指導に役立てています。
4. 見通しが持てるように、問題解決型学習方法を取り入れています。
5. 児童自身に評価できるよう、「できる」時間^{注1}を確保しています。
6. 視覚的教材を有効に活用します。
7. 「必要感」^{注2}の感じられる授業を工夫します。
8. 生徒指導の3つの機能「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」^{注3}を充実させる授業を追求します。

1学期から、子ども達にわかりやすいように発達段階に分けて、特別支援教育や障害に対する正しい知識を持ってもらうよう、啓発授業を行っています。まず、1、2年生は、特別支援学級で取り組んでいる『「リトミック」や「サーキットトレーニング」』（コーディネーショントレーニング^{注4}に通じる運動です）を特別支援学級の児童と楽しく行いました。2学期からは3年生以上に対して行います。

「やる気もりもり明野の子」を目指して今後とも取り組みます。

※（注1）授業1時間の流れが「つかむ」「みとおす」「まとめる」「できる」となっています。（注2）知識の詰め込みではなく、子ども達が「必要」と思えるような、発問や課題、場を設定することです。（注3）自己決定とは、自ら判断し行動すること。自己存在感とは、学ぶ楽しさや成就感を味わうこと。共感的な人間関係とは、認め合い学び合うこと。（注4）コーディネーショントレーニングとは、運動する上で必要な能力を高める簡単で楽しい運動です。

音楽の集い (7/21)

アリーナ全体に素敵な歌声が響き渡りました！



7・8月の行事予定

- 23土 夏季休業(～8/16)
- 25月 明野学習室(9:05～10:30)
- 26火 明野学習室(9:05～10:30)

<8月>

- 17水 2学期始業式
一斉下校
交通安全街頭指導(～19日)
- 18木 夏休み図書返本(5、6年)
- 19金 夏休み図書返本(3、4年)
夏休み作品展(～26日)
教育実習生受入(～9月15日)
- 22月 夏休み図書返本(1、2年)
児童委員会
- 24水 消防クラブ
- 26金 クラブ
- 29月 児童委員会(反省)
代表委員会



ケータイ・スマホに潜む問題～歩きスマホによる事故・トラブルが社会問題に～

携帯電話(以下ケータイ)やスマートフォン(以下スマホ)のユーザーが低年齢化し、小中学生でも「スマホ依存」や「生活習慣の乱れ」、「集中力の低下」などが問題となっています。メールやSNSなどによるプライバシーの流出や誹謗中傷、いじめなども毎日のように報道されています。また、最近は、ゲームに夢中になるあまり、歩きながらスマホを操作する「歩きスマホ」による交通事故や私有地への不法侵入などが多発し、死亡事故も発生するなど世界的に大きな社会問題となっています。

ケータイ・スマホは、便利な反面、様々なリスクを抱えています。ケータイ・スマホの利用についての指導は、保護者の役割です。家庭で、ケータイ・スマホの問題点や危険性を丁寧に説明し、保護者として心配していること、気をつけてほしいこと、守るべきモラルやルールを教えてください。家庭でのルール作りが、安心・安全の第一歩です。

事故のない有意義な夏休みを過ごすために！

◎生活リズムのある生活を！

生活リズムが乱れがちになります。「早寝・早起き・朝ごはん+朝ウンチ」など、規則正しい生活を心がけ、目標をしっかりと立てて過ごさせましょう。

◎家族のふれあいのある毎日を！

長期の休みを利用し、家族のふれあいを深める場面を意図的に作りましょう。家族の一員として、家庭での役割をもたせることも大切です。

◎事故防止の徹底！

交通事故から身を守ることを徹底しましょう。

また、残念なことに今年も各地で水難事故が発生しています。過去には苫小牧市内で小中学生の水難事故も発生しています。苫小牧の海は潮の流れが速く砂浜から少し進むと急激に深くなるため、学校では「**苫小牧の海には絶対に入りません**」と指導しています。